

分析思考研修

客観的な数字・データを用いて、正確な課題把握や説得力ある提案を行うノウハウを学ぶ

本研修の概要

お客様や上司から「根拠は？ 裏付けは？」と尋ねられ、回答に困った経験はありませんか？ 本研修では、目的設定→仮説立て→データ収集・分析というプロセスに沿って、実際のビジネスシーンを想定したワークに取り組みながら、分析思考の手法を学んでいきます。分析思考を活用すれば、客観的な数字・データを用いて、「顧客の課題を正確に把握する」「説得力のある提案をする」「より確実な意思決定をする」といったことが、よりスムーズに行えるようになるでしょう。

受講対象・人数

管理職層、中堅リーダー層、若手・新人層、内定者
※最大で30名程度

所要時間

7時間程度（昼食休憩60分含む）

プログラムを若干圧縮して、午後のみ（5時間程度）の研修として開催することも可能です。お気軽にご相談ください。

プログラム例

第1章 分析思考とは

第2章 仮説によるアプローチ

ワーク／仮説に基づくロジックツリー作成

第3章 データ収集のポイント

第4章 データの代表値

ワーク／データから平均値・中央値を出す

第5章 グラフの活用

第6章 数値の推定

ワーク／フェルミ推定

第7章 分析思考の高め方

ワーク／価格設定に必要なデータを考える

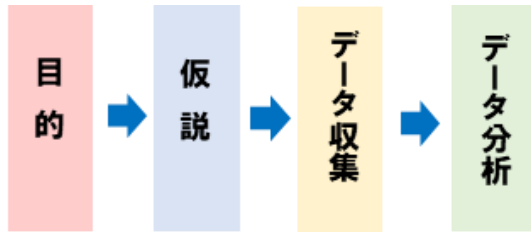
分析思考研修

客観的な数字・データを用いて、正確な課題把握や説得力ある提案を行うノウハウを学ぶ

コンテンツイメージ

受講者の声

分析の流れ



分析に仮説が必要な理由

- ① 目的が明確になり、ムダな分析を選べることができる
- ② ストーリーが作りやすくなる



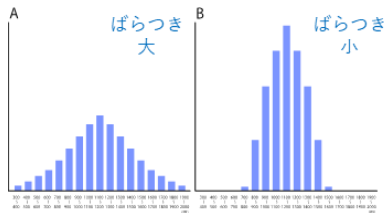
売上データを分析しました。
どうやら、商品に課題がありそうです。



売上に影響を与えるのは、店舗・競合・商品
だと考えました。これらのデータを分析した
結果、商品に最も大きな課題があるとわかり
ました。

標準偏差

標準偏差を求めることにより、データの「ばらつきの度合い」がわかり、平均値のリスクを知ることができます。標準偏差の値が大きくなれば、平均値を中心としたデータのばらつきが大きいということ。標準偏差の値が小さければ、ばらつきは小さいということです。Excelでは、「STDEV.P(スタンダード・ディベーション)関数」というものがあります。



フェルミ推定とは

実際のビジネスシーンでは「すべてのデータを収集することが不可能」という場合もあります。欲しいデータがどうしても集められない場合には、推定を行い、分析に活かす必要があります。推定の方法にも色々な種類がありますが、代表的なのは「**フェルミ推定**」です。フェルミ推定は、知っている情報をうまく活用して、おおよその数値を把握していく方法です。

● フェルミ推定のポイント

- POINT1 条件のピックアップ
- POINT2 条件に対して数値を仮置き
- POINT3 論理立ててアウトプットする

データ集計作業は業務上頻繁にあり、分析思考のスキルがあれば、データ収集のポイントや感覚も高まり、推測する精度も上がると思います。また、今回の研修では仮説の立て方から学ぶことができ、仮説から効果的に分析する考え方や、データの特徴を理解して実用していく流れもイメージもできたので、今後ぜひ活かしていきたいと思います。

データとして手に入らないものも、フェルミ推定を使えばおおよその数字を出せることを知りました。これまで、分析することに苦手意識を持っていましたが、分析する楽しさを知ることができたので、実践していきたいと思います。

今まで主観的な説明しかできていなかったことに気づき、仮説を立ててから、どのような思考のプロセスを辿って考えたのかを説明する術、感覚を身につけていきたいと思いました。今後は、ロジックツリーを書くこと、推測力を高めるべく日常的に想定する習慣をつけていきたいです。

今まで単純に平均値だけで分析していたため、中央値を取るデータ分析を学べてよかった。期初の年間計画や下期の修正計画をプレゼンする際に役立ちそうです。

事前にしっかりと分析した上で資料を作成すれば、営業トークの説得力も高まりますし、過去の自身のデータ分析を行うことで、営業戦略の練り直しもできる。非常に学びや気づきの多い、有意義な研修でした。